

学科	教養重点科（16ヵ月、19ヵ月、2年コース）		
入学時期	4月生	年次	2年次
科目名	理科（物理・化学・生物・地学）		
担当者	平田吉生 浦中智史	単位数	下記に記載

■学習・教育目標及び到達目標

本科目を通じて、公務員試験に求められる基礎知識および論理的思考力を習得し、問題の本質を的確に把握したうえで、根拠に基づき適切な判断を行う力を養う。さらに、継続的な学習を通して、規律性・主体性・責任感を身に付け、公務員として必要な基礎的資質の形成を目指し、公務員試験に合格できる力を養う。

■成績評価方法および基準

物理・化学・地学・生物の各分野についてそれぞれ25点満点の試験を実施し、合計100点満点で評価する。物理・化学・地学において試験の点数が合格基準に達しない場合は、指定するレポートの提出により当該分野を再評価する。生物においては、試験50%、レポートの提出50%で評価する。

可否	合格			不合格
評価	A	B	C	不可
評点	100～80	79～70	69～60	59～0

■教科書

オリジナルテキスト

■授業計画の内容

時間割上の科目名：【 物理 】

時数	内容	コース		
		16ヵ月	19ヵ月	2年
1 - 5	第1章 物体の運動	●	●	●
6 - 11	第2章 運動の法則	●	●	●
12 - 13	第3章 仕事とエネルギー	●	●	●
14 - 15	第4章 圧力と浮力	●	●	●
16 - 18	第5章 電界と電流	●	●	●
19 - 20	第6章 原子物理	●	●	●
21 - 24	第7章 波動		●	●
25 - 27	第8章 熱		●	●
28 - 28	試験		●	●
29 - 34	過去問演習		●	●

時間割上の科目名：【 化学 】

時 数	内 容	コース		
		16 か月	19 か月	2 年
1 — 2	原子の構造	●	●	●
3 — 4	周期表	●	●	●
5 — 6	イオン結合	●	●	●
7 — 9	共有結合	●	●	●
10 — 12	金属結合	●	●	●
13 —	化学結合と結晶	●	●	●
14 —	物質質量	●	●	●
15 — 18	化学反応と物質質量	●	●	●
19 — 20	溶解とモル濃度	●	●	●
21 — 22	酸・塩基		●	●
23 —	酸化・還元		●	●
24 —	物質の状態		●	●
25 —	試験		●	●
26 — 34	演習		●	●

時間割上の科目名：【 生物 】

時 数	内 容	コース		
		16 か月	19 か月	2 年
1 — 3	第 1 章 細胞のつくりとはたらき	●	●	●
4 — 7	第 2 章 生体内の化学反応と酵素	●	●	●
8 —	第 3 章 細胞の増殖と組織・器官	●	●	●
9 — 12	第 4 章 個体の恒常性の維持	●	●	●
13 — 15	第 5 章 刺激に対する動物の反応	●	●	●
16 — 17	第 6 章 植物の反応と調節	●	●	●
18 —	第 7 章 生殖と発生	●	●	●
19 — 22	第 8 章 遺伝と変異	●	●	●
23 — 25	第 9 章 生物の集団	●	●	●
26 —	第 10 章 進化の過程		●	●
27 — 34	過去問演習		●	●

時間割上の科目名：【 地学 】

時 数	内 容	コース		
		16 か月	19 か月	2 年
1 —	大気構造、大気組成、気圧	●	●	●
2 —	フェーン現象、エネルギー収支、大気の大循環	●	●	●
3 — 4	季節風、転向力、気団、高気圧、低気圧	●	●	●
5 — 6	前線、日本の天気、台風	●	●	●
7 —	海水の大循環、エルニーニョ、潮汐	●	●	●
8 — 10	問題演習、試験	●	●	●
11 —	地球の自転、自転の証拠、北極星	●	●	●
12 — 13	地球の公転、公転の証拠、太陽系	●	●	●
14 — 15	太陽系の惑星、天動説と地動説	●	●	●
16 —	ケプラーの法則、離角、月	●	●	●
17 —	太陽、H・R 図、星の進化	●	●	●
18 — 19	問題演習、試験	●	●	●
20 — 21	地球楕円体、重力、地震波、マグニチュード		●	●
22 —	地震の分布、地球の内部構造		●	●
23 —	プレートテクトニクス、ホットスポット、マグマ		●	●
24 —	噴火の形式、火成岩、地層、化石		●	●
25 —	地質時代区分、変成		●	●
26 — 27	問題演習、試験		●	●
28 — 34	過去問演習		●	●
理科単位数		5 単位	8 単位	8 単位

■履修にあたっての注意事項

■その他